

年譜

										年号（西暦）		東京藝術大學音樂學部・大學院音樂研究科		東京美術學校・東京音樂學校（一九五二）	
月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日
十月	五月	四月	十二月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	十二月	三日）。
同 （一九五二）	同 （一九五二）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	同 （一九五〇）	東京藝術大學音樂學部設置。作曲科、声楽科、器楽科、指揮科（一年次からの入学を認めず、三年次からの転科のみ）、楽理科を置く。音楽学部後援会発足。
朝日新聞社文化事業団主催により、第一回吹奏楽定期演奏会（十七日、日比谷公会堂。第三十回以降、音樂學部主催となる）。	東京藝術大學音樂學部オーケストラ第一回定期演奏会（十九日。通算一〇二回。東京音樂學校と合同）。	二十五年度入学試験（邦樂科を除く）。邦樂科設置。専攻に長唄と箏曲を置く。邦樂科第一回入学試験。ラザール・レビ（ピアノ）、奏楽堂で公開演奏。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。加藤成之学部長就任（東京音樂學校長を兼任）。第一回入学試験。邦樂科設置を内閣承認（二十四日）。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。東京藝術大學設置。美術學部、音樂學部、附屬圖書館を置く。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	東京藝術大學設置。美術學部、音樂學部、附屬圖書館を置く。									
八月	四月	四月	十月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	六月	十二月	三日）。
聽講生制度設置。	教員免許取得のための教職教養課程設置。	学則施行。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。	上野直昭（国立博物館館長）、音樂學部長事務取扱。

年号 (西暦)	東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科											
昭和二十六年 (一九五二)	東京美術学校・東京音楽学校(一九五二)											
昭和二十七年 (一九五三)	東京芸術大学											
四月 同三十年 (一九五五)	十一月	十二月	七月	九月	五月	四月	三月	六月	四月	三月	四月	同二十九年 (一九五四)
音楽学部第一回卒業演奏会（十六・十七日、日比谷公会堂）。ヨーゼフ・シゲティ（ヴァイオリン）奏楽堂で公開講座。本学最初の外国人名譽講師の称号授与。	音楽学部第一回卒業演奏会（十六・十七日、日比谷公会堂）。ヨーゼフ・シゲティ（ヴァイオリン）奏楽堂で公開講座。本学最初の外国人名譽講師の称号授与。	邦樂第一回定期演奏会（二日、日比谷公会堂）。	城多又兵衛附属音楽高等学校長就任。	「国立学校設置法施行令」（政令第四十三号）により、分教場に附属音楽高等学校設置。	ヴィルヘルム・バックハウス（ピアノ）、奏楽堂で公開講座。専攻科にラテン語を開講。	副手・研究補手制度施行。	台風十二号本土通過に備え、学内非常体制。授業全休講、遠距離通勤者および女性は特別休暇。幸い被害なし。	初めて両学部合同で芸術祭開催。	建築・設備資金募集のため、後援会主催の音楽学部演奏会（一日。J・S・バッハ『口短調ミサ』）。	作曲科の副科に邦樂を加える。邦樂科の三・四年生対象に国文学特別講座開設決定（二単位認定）。	朝日新聞社主催五十回連続演奏会『芸大メサイア』第一回公演（十八日。平成十二年に五十回を達成）。	学則改正。
四月	十月	六月								三月	東京美術学校・東京音楽学校廃止。	
四月 一月	美術専攻科・音楽専攻科設置（修業年限一年）、専攻生制度廃止。	美術学部校庭で、芸大一日入学開催（京都主催）。	美術学部校庭で、芸大一日入学開催（京都主催）。									

エタ・ハーリヒ・シュナイダー、四回にわたりハープシコードの講演・演奏。

現三号館一部竣工（研究室、練習室、合奏ソルフェージュ教室など）。アメリカ文化センターと学部の共催で音楽会「アメリカントリオ」を開催（十五日、奏楽堂）。

樂理科・芸術学科有志による論文集『芸林評論』第一号発刊（第二号＝昭和三十一年七月十日、第三号＝同年十二月一日）。

割り振ることとする。

													六月
													九月 十一月
													同 （一九五六年） 三十一年 （一九五六）
													同 （一九五七年） 三十一年 （一九五七）
													同 （一九五八年） 三十一年 （一九五八）
十一月	四月	三月	六月	四月	三月	十月	七月	四月	九月	九月	九月	九月	十一月
本年度の専攻科声楽専攻の修了者のうち、オペラに出演した者はその出演をもつて修了演奏にかかる、と決定。	弦管打專攻生にオーケストラを必修科目とする。	現三号館竣工に伴い邦楽科教室が三号館へ移動。楽理科の入試に面接試験を追加。	エミール・ギレリス（ピアノ）公開講座。	アーヴィン・ジョスペ（シカゴ・リリック・オペラ）、学生を対象に「オペラ歌手の養成について」の講演と実技指導。	附属音楽高等学校第一回卒業式。	第一回邦楽児童鑑賞会（六日、奏楽堂）。	田尾一一附属音楽高校校長就任。	下總覺三学部長就任。	クロイツァー教授記念碑除幕式（一日）。六月に死去した宮城道雄教授の追悼式（九日、奏楽堂）。	日比谷公会堂）。	第一回芸大オペラ公演でヴェルディ《椿姫》を上演（十八・十九日、	樂理科・芸術学科有志による論文集『芸林評論』第一号発刊（第二号＝昭和三十一年七月十日、第三号＝同年十二月一日）。	現三号館一部竣工（研究室、練習室、合奏ソルフェージュ教室など）。アメリカ文化センターと学部の共催で音楽会「アメリカントリオ」を開催（十五日、奏楽堂）。
九月													四月
台風二十一号で赤羽寮が大きな被害を受ける。	美術学部で下駄履き禁止の内規制定。	本年度の専攻科声楽専攻の修了者のうち、オペラに出演した者はその出演をもつて修了演奏にかかる、と決定。	エミール・ギレリス（ピアノ）公開講座。	アーヴィン・ジョスペ（シカゴ・リリック・オペラ）、学生を対象に「オペラ歌手の養成について」の講演と実技指導。	附属音楽高等学校第一回卒業式。	第一回邦楽児童鑑賞会（六日、奏楽堂）。	田尾一一附属音楽高校校長就任。	下總覺三学部長就任。	クロイツァー教授記念碑除幕式（一日）。六月に死去した宮城道雄教授の追悼式（九日、奏楽堂）。	日比谷公会堂）。	第一回芸大オペラ公演でヴェルディ《椿姫》を上演（十八・十九日、	樂理科・芸術学科有志による論文集『芸林評論』第一号発刊（第二号＝昭和三十一年七月十日、第三号＝同年十二月一日）。	現三号館一部竣工（研究室、練習室、合奏ソルフェージュ教室など）。アメリカ文化センターと学部の共催で音楽会「アメリカントリオ」を開催（十五日、奏楽堂）。

東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科											
東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）											
年譜											
年号（西暦）											
十二月											
第一回オーケストラ定期でC・チャベス『打楽器のためのトツカーダ』本邦初演（十一日、日比谷公会堂）。											
三月											
教官の定年を六十七歳と定める。											
五月											
朝日新聞社が、メサイアの収益をもとに、慰問演奏を目的とした国内初のミュージック・カー「芸大メサイア号」を作製（十一日。昭和四十二年に老朽化のため廃車）。											
六月											
田尾一一学部長就任。											
十一月											
音楽教育創始八十周年記念事業開催。楽理科の定員を二十名から十五名に変更。											
一月											
五月											
パーヴェル・セレブリヤコフ（ピアノ）公開演奏（二十三日）。ジョン・ハント披露演奏会（二十八日）。											
四月											
邦楽科に長唄囃子、能楽囃子専攻を設置。											
卒業特別演奏または教職科目に振り替え可能であつた副科実技を作曲、楽理科以外には自由研究科目とすることに決定。チエコ・トリオ公開レッスン（十六日）。											
十二月											
樂理科卒業論文に、口頭試問をあわせて行うことを決定。											
同三十六年（一九六一）											
四月											
樂理科定員二十五名に増員。教員養成課程の定員枠を廃止し、学部の定員に含めることとする。											
規則改正（学生の所属する科は入学時に決定し、変更は認めない。ただし、指揮科への転科は邦楽科をのぞく各科に二年在学し、所定											
九月											
四月											
研修員および内地留学生制度制定。											
九月											
赤羽寮、現地復旧を断念し、石神井寮敷地内に移築。											
研究施設）落成。											
美術学部附属奈良研究室（後の古美術研究施設）落成。											

の単位を取得した者の中から選考)。

楽理科からの古楽器合奏研究会設置要請を、クラブ活動として承認。定期演奏会規則制定。オーケストラ、吹奏楽、邦楽、オペラ研究の四種目を定期演奏会と規定。

同 三十七年 (一九六二)					十一月
九月	六月	三月	九月	四月	二月
福井直俊学部長就任。附属音楽高等学校創立十周年記念式典。 ウォルター・トランプラー(ヴィオラ)、演奏、講演、公開レッスン	第一ホール、第二ホール完成。 別科の学生定員を二〇〇名から一〇〇名とすることに決定。	作曲科の提案により、音楽理論のクラス増加を決定。	七月八日に死去した下總覺三元学部長の追悼式(十四日、奏楽堂)。	アルメニアのコミニタス弦楽四重奏団、奏楽堂で演奏(二十七日)。 シドニー・フォスター(ピアノ)、奏楽堂で演奏と講義(十五日)。 オペラ運営委員会設置。オーケストラと吹奏楽を一つにして合奏研究室を設置。	ヴィルヘルム・シュヒター(指揮)、奏楽堂にて大学オーケストラを指導(十三日)。
同 三十八年 (一九六三)	十一月	十月	七月	六月	一月
					小塚新一郎学長就任。美術学部内梅林(足立)食堂焼失。以降学食は大浦食堂とキヤッスルの二軒のみとなる。
四月					十二月
專攻科廃止。大學院修士課程美術・音樂研究科設置(この年度に限り、五月二十日入学)。講座制導入。	名譽教授称号授与規則制定、施行。	第一回の名譽教授称号授与(石井鶴三ほか九名)。			

年号（西暦）		東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科		東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）	
昭和三十八年 (一九六三)	年号（西暦）	十一月	十一月	十一月	十一月
同四十三年 (一九六八)	六月	五月	三月	十二月	十二月
同四十二年 (一九六七)	九月	六月	三月	三月	三月
同四十年 (一九六五)	同四十一 (一九六六)	同三十九年 (一九六四)	同三十九年 (一九六四)	同三十九年 (一九六四)	同三十九年 (一九六四)
オペラ研究部発足。	オペラ研究部発足。	オペラ履修学生が四年次にリートに変更を申し出た場合、外国语単位を満たしていることを条件に許可すると決定。	オペラ履修学生が四年次にリートに変更を申し出た場合、外国语単位を満たしていることを条件に許可すると決定。	オペラ履修学生が四年次にリートに変更を申し出た場合、外国语単位を満たしていることを条件に許可すると決定。	オペラ履修学生が四年次にリートに変更を申し出た場合、外国语単位を満たしていることを条件に許可すると決定。
修士課程音楽学の入学定員を四人から六人に増員。	修士課程音楽学の入学定員を四人から六人に増員。	省令改正により、修士講座制施行。	省令改正により、修士講座制施行。	第十三回芸大オペラ公演でロッシーニ『アルジェのイタリア人』本邦初演（二十八・二十日、渋谷公会堂）。	第十三回芸大オペラ公演でロッシーニ『アルジェのイタリア人』本邦初演（二十八・二十日、渋谷公会堂）。
演奏会で演奏（七日）。	演奏会で演奏（七日）。	奏楽堂で演奏（二十四日。演奏は服部豊子）。	奏楽堂で演奏（二十四日。演奏は服部豊子）。	二号館竣工。規則改正（指揮科には一年次から入学する。当分の間は三年次の転科を認める）。	二号館竣工。規則改正（指揮科には一年次から入学する。当分の間は三年次の転科を認める）。
樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。	樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。	樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。	樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。	樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。	樂理科の入試科目に数学が加わる。管弦楽研究部発足。
三月	三月	三月	三月	三月	三月
四月	四月	四月	四月	四月	四月
五月	五月	五月	五月	五月	五月
六月	六月	六月	六月	六月	六月

同
四十四年
(一九六九)

同 四十六年 (一九七二)		同 四十五年 (一九七〇)		四月
四月	六月	一月	十二月	四月
野政雄、服部幸三)。 音楽取調掛資料研究調査班設置(メンバード長谷川良夫(主査)、濱	反安保抗議行動参加のため、学友会が投票により二十三日二十四時間ストライキ権確立(二十二日。二十四日にストライキ解除)。	池内友次郎学部長就任。	福井直俊学部長事務取扱。学生オーケストラの定期演奏会始まる。	大学院修士課程に音楽教育講座設置。 兎東龍夫附属音楽高等学校校長就任。

東京芸術大学生生活協同組合創立総会(十七日)。

美術学部自治会、音楽学部学友会、寮委員会から学長宛に公開質問状が提出される(回答は四月二十五日)。

東京芸術大学生生活協同組合創立総会(十七日)。

	六月	四月	九月	八月	六月	三月	一月
	芸術資料館設置。研究生制度設置(修士課程修了者対象)。	反安保行動参加のため、自治会は投票により四十八時間ストライキ権確立(二十二日。二十五日ストライキ解除)。	福井直俊学長就任(八日)。学生により本部が封鎖される(十日)。十三日完全解除)。	大学名の欧文正式名称(ローマ字、英、獨、仏、伊)が決定。芸大海の家を、八月末まで材木座海岸に開設。	大学紛争に関し、「大学の運営に関する臨時措置法」、「臨時大学問題審議令」、「大学の運営に関する臨時措置法施行規制」等の法律、制令、省令が施行される。	小塙試案が学制改革審議会に提出される。	東京芸術大学生生活協同組合創立総会(十七日)。

東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科										年号（西暦）
										昭和四十六年 (一九七二)
五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	一二月	三月	四月	同 四十七年 (一九七二)
五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	一二月	三月	四月	同 四十八年 (一九七三)
五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	一二月	三月	四月	同 四十九年 (一九七四)
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十二月
長谷川良夫附属音楽高等学校長就任。室内合奏講座（昭和五十三年以降は室内楽講座）開設。	明治村より、文書で旧奏楽堂譲渡の申し入れ（三十日）。	第十八回芸大オペラでマスカーニ『ロドレッタ』本邦初演（二十七日、東京郵便貯金ホール）。	これまでの卒業演奏会にかわり、虎ノ門ホールで音楽学部卒業試験公開演奏会。以後卒業試験は公開となる。	石桁真禮生学部長就任。附属音楽高等学校創立二十周年記念行事。楽理科の入学定員を十五名から二十五名に増員。	第十九回芸大オペラでモーツアルト『かまと娘』本邦初演（二十六日、都市センターホール）。	音楽研究科修士課程の入学定員を二十四人から二十六人に増員。	音楽学部室内楽第一回定期演奏会（八日、東京文化会館小ホール）。	音楽学部『年誌』発行開始。	渡邊高之助附属音楽高等学校長就任。	管弦楽研究部およびオペラ研究部を正式に学則に位置付け、教育・研究の実習機関として明確化。
十月	十一月	一二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	同 五十年 (一九七五)
大学案内発行・配布開始。	ソルフェージュ講座設置。	音楽取扱所蔵品特別展（十日～六月四日、芸術資料館ギャラリー）。	東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）	東京芸術大学						
四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	一二月	一月	十二月
言語・音声トレーニングセンター設置。工芸科が改組され、デザイン科設置。	石神井学生寮竣工（男子寮、女子寮合併）。									

同 （一九七九年）	同 （一九七九年）	同 （一九七八年）	同 （一九七三年）	同 （一九七七年）	同 （一九七二年）	同 （一九七七年）	五月	四月	
二月	九月	七月	六月	四月	十月	四月	九月	五月	
「ニューミュージック（ジャズ等）におけるインプロヴィゼーション」とアンサンブルについて」学内公開講座（十日。講師＝秋吉敏子、村たつ（俳優座劇団））。	アイザック・スター（ヴァイオリン、一日）、ジェラール・スゼー（バリトン、九日）学内公開講座。	渕野政雄学部長就任。	芸大沖縄音楽総合研究グループ（代表＝小泉文夫教授）の沖縄・石垣派遣（二十四日～八月十二日）。	邦楽科に常磐津、清元、尺八専攻を設置。	創立九十周年記念行事開催。第二十三回芸大オペラでジョルダーノ「メセ・マリアーノ」本邦初演（二十九・三十日、郵便貯金ホール）。	創立九十周年記念「音楽教育資料展」・「楽器展」（～三十日）。ベルリン国立音楽大学教授クラウス・シルデ学内公開講座（十四日）。	音楽学部カラヤン第九合唱合同練習（十二日）。ニュージーランド弦楽四重奏団演奏会（十七日）。	天皇陛下御在位五十周年記念式典において記念演奏（十日）。幼稚園教育一〇〇年記念式典において記念演奏（十六日）。	音楽学部後援会改組により音楽教育振興会発足。
五月	九月	十一月	十二月	三月	十月	九月	十一月	五月	
同 （一九七四年）	同 （一九七九年）							美術学部附属写真センター設置。	
五月	九月	十一月	十二月	三月	十月	九月	十一月	五月	
								音楽を主題にした美術作品展（～十月九日）。	

年号（西暦）	東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科											
	東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）											
同 五十七年	昭和五十四年 (一九七九)	同 五十五年 (一九八〇)	同 五十六年 (一九八二)	四月	五月	六月	七月	七月	七月	三月	十二月	
三月	ルー・タバキン（アルトサックス）。	奏楽堂建設小委員会要項制定。	「バッハの音楽について」学内公開講座（十三・十四日。講師＝ドイツ・バッハ・グリスティン主宰ヘルムート・ヴィンシャーマン）。	「指揮法及びカナダの音楽事情について」学内公開講座（十一日。講師＝トロント交響楽団・トロント大学オーケストラ指揮者ヴィクトル・フェルドブリル）。	「フランス室内楽作品（ドビュッシー、ルーセル）の演奏について」学内公開講座（二十五日。講師＝パリ国立音楽院教授クリスチヤン・シルデ）。	内山台東区長（当時）が、奏楽堂引取りの意向表明（十四日）。	「フランス音楽について」学内公開講座（十六日。講師＝マルセイユ新聞報道によりガダニーニ事件（ヴァイオリソ汚職等事件）発覚（二十八日）。	「臨時教授会『四項目の申し合せ（学外個人レッスンの禁止、受験指導の禁止、入試における棄権方式の徹底、リベートの禁止）』を決定（十七日）。弦楽器問題対策委員会規定制定。	新音楽院長ピエール・バルビゼ）。	大学会館竣工。	山本正男学長就任。	
三月	卒業式における学長の式辞「藝術とモラ	百年史編纂部会要項制定。	創立百周年記念事業準備委員会要項、物品の高価購入防止対策協議会要項、押し売りに対する応対要領制定。	七月	十月	七月	三月	十二月	三月	東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）	東京芸術大学	

(一九八二)

渡邊高之助学部長就任。タイ・シルパコーン大学との相互協約締結。
松野景一附属音楽高等学校校長就任。ガダニーニ事件初公判(二十八日)。

教授会『新四項目の申し合せ』(学外個人レッスンの再開、受験目的での集団レッスンの禁止、入試における棄権方式の徹底、金銭面の綱紀粛正)を決定(十三日)。「韓国雅楽演奏会」(十五日)、秋渕芸術学校国楽科演奏団)、「室内楽 ピアノトリオ」(二十四日)、ボザール・トリオ)学内公開講座。

アンリ・デュティユー(学内公開レッスン(三日)、「現代ピアノの構造とその調整」(二十二日)、講師)(株)日本楽器技術主任 野末智)学内公開講座。

第二十八回芸大オペラでロッシーニ『試金石』本邦初演(二十四・二十五日、郵便貯金ホール)。

「パリ島の舞踊と音樂」学内公開講座(一日)、インドネシア・チンタマニック民族舞踊団)。

同
五十八年
(一九八三)

創立百周年記念演奏会部会要項制定。

弦楽器購入に関する規則制定(十九日)。

奏楽堂の上野公園移築保存が決定。弦楽器購入に関する細則制定(七月)。第一回浅草オペラの夕べ(台東区主催、音楽・美術学部協力)(十五日、浅草公会堂)。

第一回一般公開講座(打楽器教室)。八日(十日)。

同
五十九年

創立百周年記念式典部会、資料展部会、貴重図書展部会、樂器展部

ル

四月

五月

六月

九月

十月

十一月

三月

五月

七月

八月

一月

四月

八月

那須高原研究施設設置。

創立百周年記念展部会要項制定。

第一回一般公開講座(銅版画・木版画講座)。二十二日(二十八日)。

第一回一般公開講座(デザイン)。三日(十月九日、十二日間)

東京藝術大学音楽学部・大学院音楽研究科									
東京美術学校・東京音楽学校（一九五二）									
（一九八四）									
五月	八月	十月	二月	三月	四月	六月	八月	九月	昭和六十年 (一九八五)
会、記念事業部会要項制定。	奏楽堂のお別れ演奏会（十七日。モーツアルト『ディイヴエルティメント』二長調K-三六）を演奏。	第二回一般公開講座（木管楽器教室。六日～八日）。	第三回一般公開講座（木管楽器教室。六日～八日）。	附属音楽高等学校創立三十周年記念事業。	「ワヤン・クリツとガムラン」学内公開講座（二十五日。講師：アノム・ストロ、サブトノほか）。	学部と別科の併願を声楽・邦楽（筝曲以外）を除き、許可しないこととする。	田村宏附属音楽高等学校長就任。ガダニーニ事件第一審判決（八日。即日控訴したが、同年十月二十九日に取り下げたため判決確定）。	小泉文夫記念資料室開室披露会（六日）。	第三回一般公開講座（金管楽器教室。六日～八日）。
八月	九月	八月	八月	八月	八月	九月	九月	八月	第三回一般公開講座（銅版画・孔版画講座。二十二日～二十九日、デザイン一・二・三講座二十四日～九月二十九日、十二日間、デザイン四講座二十四日～九月一日、四日間）。
九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	第三回一般公開講座（デザイン五講座、七日～十五日、四日間）。

同 （一九八六）	四月	八月	十月	二月	五月	六月
十二月	八月	八月	十月	二月	五月	八月
ジャン・フルネ指揮公開レッスン（六日。ブーランク《オーバード》、《十八の楽器とピアノのための協奏曲》）。	服部幸三学部長就任。初のチエンバロ専攻生（二名）入学。音楽学部全体遠足廃止。	第四回一般公開講座（合唱教室。十一日～十三日）。	セルジュ・エリビダック指揮公開レッスン（十六日）。	邦楽科一年次の後期試験後に限り、学生の希望と担当教官の承認があれば、試験を経た上で長唄・能楽の専攻変え（唄→三味線、囃子方→シテ方）を認める、と決定。	旧奏楽堂復元完成、落成式（二十七日、台東区・上野公園内）。創立百周年記念演奏会開始。第一回＝オーケストラ定期第二二五回（三十日、サントリーホール。ジャン・フルネ指揮のもと、ベルリオーズ《幻想交響曲》、ドビュッシー《牧神の午後への前奏曲》、ラヴェル《ダフニスとクロエ第二組曲》）。	八月
藤本能道学長就任。	学則改正（博士課程の標準修業年限を五年とし、特に優れた業績をあげたと認められたものは、修士課程における二年を含め三年在学すれば足りるとする）。	第四回一般公開講座（木版画・孔版画講座二十一日～二十八日、デザイン一・二・三・四講座三十日～十月五日、十二日間、デザイン五講座二十三日～三十一日、四日間）。	九月	八月	四月	十二月
八月	三月	五月	六月	八月	八月	八月
第五回一般公開講座（指揮法教室。十二日～十四日）。	取手校地の取得完了。	第五回一般公開講座（住民のための建築学校三日～五日、銅版画・孔版画講座二十日～二十七日、デザイン一・二講座二				

年号（西暦）	東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科	昭和六十二年 (一九八七)	東京美術学校・東京音楽学校(一九五二)	東京芸術大学
九月	十月	十一月	九月	九月
<p>「マイクアップの基礎と実習」(八日)。講師＝劇団俳優座小笠原良智、阿部百合子) 学内特別公開講座。</p> <p>百周年記念演奏会第二回＝邦楽定期第三十七回(十六日、国立劇場。伊澤修二作詞の祝賀曲『晴天の鶴』を含み、能楽も参加)、百周年記念演奏会第三回＝オーケストラ定期第二三六回(十九日、サントリーホール。作曲科常勤教官全員による新作作品演奏会)。</p> <p>奏楽堂開館・パイプオルガン修復完成記念式典・演奏会(二日)。</p> <p>百周年記念演奏会第四回＝ガムラン特別演奏会(四日・五日、旧奏楽堂。元外国人教師サブトノを招き、ガムラン導入以来十四年間を振り返る)。百周年記念楽器展開催(四日～二十五日、旧奏楽堂。小泉文夫記念資料室所蔵の楽器を中心に、展示とデモンストレーション)。</p> <p>百周年記念演奏会第五回＝室内楽演奏会(六日、旧奏楽堂。ピアノ、弦、管、打楽器の教官と学生の出演により、ヴァレーズ、バルボトゥー、モーツアルト、ハイドン、シューベルトの作品を演奏)。</p> <p>百周年記念演奏会第六回＝オペラ公演(九日～十二日、旧奏楽堂。日本で最初に上演された、グルック『オルフェオとエウリディーチェ』を再演)。開館記念 奏楽堂オペラの夕べ開催(十三日・十四日、旧奏楽堂。十二日にひき続き同じ出演者で『オルフェオとエウリディーチェ』を上演)。</p> <p>伊澤修二記念祭開催(一日、長野県高遠町民体育館。芸大オーケストラが出張演奏)。百周年記念演奏会第七回＝オーケストラ定期第二七回(合唱付)(二十七日、サントリーホール。記念演奏最終回。シェーンベルク『グレの歌』を、日本初演者の若杉弘を指揮に迎え、演奏)。</p>	<p>「マイクアップの基礎と実習」(八日)。講師＝劇団俳優座小笠原良智、阿部百合子) 学内特別公開講座。</p> <p>百周年記念演奏会第二回＝邦楽定期第三十七回(十六日、国立劇場。伊澤修二作詞の祝賀曲『晴天の鶴』を含み、能楽も参加)、百周年記念演奏会第三回＝オーケストラ定期第二三六回(十九日、サントリーホール。作曲科常勤教官全員による新作作品演奏会)。</p> <p>奏楽堂開館・パイプオルガン修復完成記念式典・演奏会(二日)。</p> <p>百周年記念演奏会第四回＝ガムラン特別演奏会(四日・五日、旧奏楽堂。元外国人教師サブトノを招き、ガムラン導入以来十四年間を振り返る)。百周年記念楽器展開催(四日～二十五日、旧奏楽堂。小泉文夫記念資料室所蔵の楽器を中心に、展示とデモンストレーション)。</p> <p>百周年記念演奏会第五回＝室内楽演奏会(六日、旧奏楽堂。ピアノ、弦、管、打楽器の教官と学生の出演により、ヴァレーズ、バルボトゥー、モーツアルト、ハイドン、シューベルトの作品を演奏)。</p> <p>百周年記念演奏会第六回＝オペラ公演(九日～十二日、旧奏楽堂。日本で最初に上演された、グルック『オルフェオとエウリディーチェ』を再演)。開館記念 奏楽堂オペラの夕べ開催(十三日・十四日、旧奏楽堂。十二日にひき続き同じ出演者で『オルフェオとエウリディーチェ』を上演)。</p> <p>伊澤修二記念祭開催(一日、長野県高遠町民体育館。芸大オーケストラが出張演奏)。百周年記念演奏会第七回＝オーケストラ定期第二七回(合唱付)(二十七日、サントリーホール。記念演奏最終回。シェーンベルク『グレの歌』を、日本初演者の若杉弘を指揮に迎え、演奏)。</p>	<p>創立百周年記念式典(四日)。</p>	<p>十二日～九月二十七日、十二日間、デザイン三講座二十二日～三十日、四日間)。</p> <p>第五回一般公開講座(デザイン四講座、五日～十三日、四日間)。</p>	<p>十二日～九月二十七日、十二日間、デザイン三講座二十二日～三十日、四日間)。</p> <p>第五回一般公開講座(デザイン四講座、五日～十三日、四日間)。</p>

百周年以後略年譜

平成 元年 (一八八九)	同 三年 (一九九二)	同 四年 (一九九三)	同 六年 (一九九四)	同 七年 (一九九五)	四月	十月	四月	四月	十月	十二月
同 十年 (一九九八)	同 九年 (一九九七)	同 八年 (一九九六)			四月	四月	四月	原田茂生学部長就任。	永富正之附属音楽高等学校長就任。	平山郁夫学長就任。
四月	三月	四月			四月	十月	四月	邦楽科に雅楽、日本舞踊専攻を設置。 齋藤一郎学部長就任。	原田茂生学部長就任。	取手校地開設。各種アトリエを置くほか、芸術学以外の一年生対象の授業を行う。
旧奏楽堂跡地に新奏楽堂竣工。 新奏楽堂開館記念演奏会。	山本文茂附属音楽高等学校長就任。			附属音楽高等学校が上野校地内（旧奏楽堂跡地）に移転。 附属音楽高等学校創立四十周年記念演奏会（カザルスホール、北とぴあさくらホール）。				国家公務員全面週休二日制導入とともにない、授業も週五日制となる。		
芸術資料館を転換し、大浦食堂敷地跡に大学美術館を設置。大浦食堂は館内に移転。			四月	十二月	三月	十二月	四月	大学院美術研究科に文化財保存学専攻を設置。 美術学部客員教授三笠宮崇仁殿下に、初の名誉博士号授与（十八日）。澄川喜一学長就任（二十一日）。	松戸に国際交流会館（外国人留学生・研究者用宿舎）を設置。 演奏芸術センター設置。	取手校地開設。各種アトリエを置くほか、芸術学以外の一年生対象の授業を行う。

年号（西暦）	東京芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科			東京美術学校・東京音楽学校（～一九五二）
平成十一年 （一九九九）	四月	器楽科に古楽専攻、大学院修士課程に応用音楽学専攻、附属音楽高等学校に箏曲専攻を設置。	四月	美術学部改組により先端芸術表現科設置（授業はすべて取手校地で行う）。
同十二年 （二〇〇〇）	四月	高橋大海学部長就任。佐藤眞附属音楽高等学校校長就任。	四月	情報処理センター（芸術情報センター）設置。
同十三年 （二〇〇一）	四月	邦楽科の長唄囃子専攻を、邦楽囃子と改称。附属音楽高等学校に尺八専攻を設置し、箏曲とあわせて邦楽専攻とする。		
同十四年 （二〇〇二）	四月	音楽学部改組により、音楽環境創造科設置（授業は取手校地で行う）。ホール館（第一～第四ホール）改修工事開始。	十二月	平山郁夫学長就任。
同十五年 （二〇〇三）	十月 四月 三月	三号館新営および改修工事開始（十六年三月竣工予定）。 川井學部長就任。 ホール館竣工。		